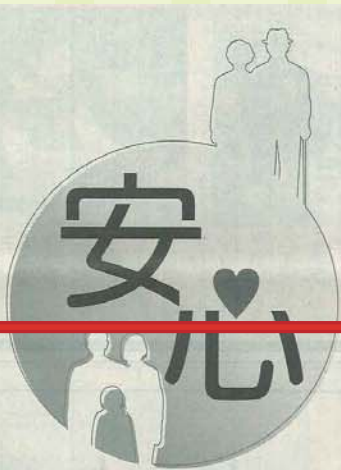




2/2付「読売新聞」に当社が紹介されました。

YOMIURI ONLINE (<http://osaka.yomiuri.co.jp/mama/society/ms20100202kk05.htm>)



（居相談を
当センター
とさんは、
1ムの原
改善すれ
る。競争
価値とし
力を入れ
。楽しみ
職員に余
ごと話し
おわり）

大
料亭の料理長だった職員
が、毎日の食事に腕をふる
う（静岡市の有料老人ホ
ム「庵原里日和館」で）

＊学習会「『介護保険の動向』—政権交代で安心が見えるか」 6日午後2～4時、東京都渋谷区の東京ウイメンズプラザ視聴覚室。民主政権になって、介護保険制度はどう変わろうとしているの

か。制度の方向性について、厚生労働省老健局の古川夏樹・介護保険計画課長が話す。1000円。NPO法人「特養ホームを良くする市民の会」（☎、ファクス03・3358・9093）。

育児女性 活躍できる職場

来店型保険代理店 未経験者も採用

複数の会社の生命保険などを取り扱う来店型の保険代理店が、子育て中の女性の職場として注目され始めた。保険会社からの転職者にとどまらず、未経験者も積極的に採用している。（内田健司、写真も）



●集団研修では、スタッフと顧客役に分かれて模擬相談を試みる（静岡県熱海市のライフプラザホールディングスの新人研修で）
来店型保険代理店で生命保険の相談にあたる兵藤美幸さん（川崎市）の保険相談サロン（F.L.P.）で



■人生相談のよう
川崎市の小田急線新百合ヶ丘駅に近い商業ビルにある保険相談サロンF.L.P.（本社・東京都世田谷区）新百合ヶ丘エルミロード店。マンション購入を機に、生命保険の見直しを考えていた会社員（43）が同店を初めて訪れたのは、店の看板が偶然目に飛び込んだからだった。
加入していた生命保険

は、独身時代に外交員に勤められるままに入ったもので、契約内容を詳しく確認することもなかった。同店で調べてもらうと、保険料のほとんどが掛け捨てとなるタイプ。妻と2人の子どもの将来を考えれば十分な保障にはならないと思われた。

相談の結果、夫婦がそれぞれ加入していた保険を解約したうえで、医療、生活保障などの社の保険を新規で契約することに。会社員は「支払総額は増えしたが、貯蓄代わりの保障も得られ。複数の保険会社の長所を組み合わせた保険商品を紹介してもらって納得できた」と話す。

この契約を担当した兵藤美幸店長は元々、別の保険会社で訪問型の営業をしていた。「1社の保険商品しか売れない時と比べ、お客様のことを考えてじっくり話し合えるので、ライフプランに沿った提案をしています。いわば人生相談のようなものです」と意欲をのぞかせた。

正社員で働ける

来店型代理店の経営者らでつくる保険代理店協議会によると、来店型では、保険外交員のような営業活動が不要なため、女性の職場として関心が高まっているという。加盟社だけで全国に約300店舗あり、人材育成などの研修にも力を入れ始めている。

「ライフプラザホールディングス」（本社・東京都渋谷区）では、2008年に40人、09年に47人の女性を正社員で採用した。店舗への配属前に、1週間の集団研修のほか、約2か月間にわたって商品知識などの基礎を学ばせる。「説得する営業ではなく、耳を傾ける接客」という心がけを徹底するためだ。

今年1月に採用されたのは11人で、このうち6人が

女性。松の内の先月4日から10日まで、静岡県熱海市の同社施設で集団研修に臨んだ。

岐阜県の尾関明日香さん（29）は、夫や小学生2人の子を残して参加。独学でファイナンシャルプランナーの資格を取ったものの、保険業務の経験はない。「一時給もほとんどがらならないパートに比べ、子育てしながら正社員で働けるのも魅力でした」と明かす。

保険外交経験者で都内に住む小保方美子さん（40）が入社したのは、「保険の流通革命」を唱える今野則夫社長に共鳴したことから。「娘との二人暮らしですが、自分自身が輝けるように、一生の仕事にしていきたい」と力が入る。

- ◆保険代理店協議会 (<http://www.nodaikyo.org/>)
- ◆F. L. P. (☎03-5797-5730、<http://www.f-l-p.co.jp/>)
- ◆ライフプラザホールディングス (☎0120-605-804、<http://www.lifeplaza.co.jp/index.html>)

■お便りをお寄せ下さい。
〒100-8055読売新聞東京本社・社会保障部（ファクス03-3217-9957、Eメールansin@yomiuri.com）

＊公開シンポジウム「小児がん患者・家族および子育て世代のがん患者・家族への支援をどうするか」 11日午後1～5時、東京・築地の聖路加看護大学。小児がん患者の復学などの支援の現状と課

題を話し合うほか、親ががんになった時、子供にどう伝え、接すればいいか助言しようとして製作された絵本も披露する。聖路加国際病院研究管理部（☎03-5550-2423）。